



長野県版エシカル消費の推進について

長野県県民文化部くらし安全・消費生活課長 笠原隆通

❖ 「地球 2.8 個分」

これが何を表す数字か、皆さんにはピンときますか？

これは、世界中の人々が日本人と同じような生活をするときと仮定したときに必要となる水や資源の量を計算すると、地球 2.8 個分になるという試算結果を表します。つまり、現代の私たちは、地球の自然回復力よりも 2.8 倍のスピードで資源を消費しているのです。ちなみに、アメリカ人を基準とすると、地球 5.0 個分が必要となるそうです。^{*脚注}

世界の多くの人々が、「このままの暮らし方で本当によいのか？」との疑問を感じ始めています。特に、生まれてから経済成長という経験を経ずに地球規模の環境問題などに直面している若い世代で、その傾向が高くなっているようです。

持続可能な地域、国、地球であるために、私たちは何ができるのか……答えの一つが、GDPの半分以上を占める家計の消費支出に着目した「エシカル消費」です。

❖ 長野県版エシカル消費とは

「エシカル」とは「倫理的」「道徳的」という意味であり、エシカル消費を分かりやすく表現すると「人や社会、地域、環境に配慮した思いやりのある消費」と言うことができます。そこに健康長寿県である本県では「健康」もその一環として加え、「長野県版エシカル消費」として推進しています。

普段のお買い物の際に、「似合うかな？」「値段は？」などと考えるのと同じように、「どこでつくられたのかな？」「環境にやさしいかな？」といった目線を加えていただくことが、「長野県版エシカル消費」の第一歩になります。

❖ 長野県の取組

現在長野県では、自然エネルギーの推進、県産農産物の地域内消費の拡大、県産材製品の需要の創出、信州健康エコ住宅の普及促進など、31 課室において 43 の長野県版エシカル消費に関する事業を進めております。

くらし安全・消費生活課では、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで、エコマークや有機 JAS マークなどの認証商品を置いた棚にスイング POP を掲示し、店頭でどの商品を買うことがエシカル消費につながるのかが簡単に分かっていただけるような取組【写真】を始めました。また、多様な世代の皆さんに理解を深めていただけるよう、WEB 講座も作成し、信州環境カレッジなどを通じて多くの皆さんにご覧いただきたいと考えています。

❖ 最後に

本県は、一人 1 日当たりのごみの排出量 6 年連続で全国最少を継続中でありますし、県政モニター調査によれば、7 割の方が「値段の安さだけでなく長く使えるか、本当に必要かを重要視する」と答えています。

潜在的には「エシカル」な意識の高い皆さんです。せっかくなら世の中を良くする「エシカル」な商品を意識して選んでみませんか？



↑コープながの

- スイング POP
- チラシ掲示

イオン→

Ethical Style Nagano

長野県版エシカル消費



<https://www.nagano-shohi.net/ethical>



わが社の SDGs —— 会員の皆様の取り組みを随時ご紹介しします ——

株式会社竹村製作所 ～使う人の身になって～

株式会社竹村製作所は、「使う身になって考え、作って、販売、そして使っていただく」の企業理念のもと、不凍栓の総合メーカーとして寒冷地の水と人々の暮らしを見守り続けて 70 年になります。

1999 年に ISO9001、2003 年に ISO14001 を認証取得し、以降時代のニーズに合わせたより豊かな“水のある暮らし”をご提案するとともに、環境保全や社会貢献に取り組んでまいりました。

昨年、第 4 期長野県 SDGs 推進企業として登録していただきました。

具体的な取り組みとして、

- ① 事業活動におけるエネルギー使用量の削減
- ② 労働環境改善における女性従業員雇用率の引き上げ
- ③ 事業活動における廃棄物排出量の削減

この 3 点を重点に取り組んでおります。

ISO14001 認証取得当時から国道沿いの本社ガラス面に「緑のカーテン」を作っています。「ゴーヤ」、「アサガオ」、「パッションフルーツ」を栽

培し、緑の空間の提供と夏場の省エネルギー対策を行います。弊社ホームページでも「緑のカーテン日記」を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.takemura-ss.com/tkblog/green/>



また、社内 5S 活動ではゴミの分別に「色別化」を取り入れ、似たモノを色分けし、分別の間違いを防止し、廃棄物の削減を行っています。

今後も企業理念のもと、SDGs の達成に貢献してまいります。（経営企画室 湯本 真由美）
北信支部・長野市

株式会社サンジュニア 太陽エネルギーの専門家として「地域になくてはならない会社」へ

サンジュニアは、太陽光発電システム・太陽熱利用システムなど、太陽エネルギー機器を扱っている会社になります。

2019 年 10 月に「長野県 SDGs 推進企業」にご登録いただきました。

当社の取組として、本社で使用するエネルギーを無限でクリーンな太陽エネルギー由来に置き換える取組を行っています。屋根上に設置した太陽光発電システムは消費電力の 4 割以上を再生可能エネルギーに、太陽の熱エネルギーを利用した暖房システムは冬の空調に使うエネルギーの 3 割以上をクリーンエネルギーに切り替えることができます【写真下】。



本社屋根上に設置した太陽光発電・太陽熱給湯システム

また、太陽光発電の電力を車に充電する V2H システムを導入し、社員 1 名の通勤のほとんどをクリーンな電力で賄っています。

当社の主たる事業である太陽エネルギー機器の販売施工は、暮らしや事業に使用するエネルギーの多くを CO₂ 排出のないクリーンエネルギーに置き換えることが可能です。

また、設備費用・維持費用が 0 円で導入できる事業を展開する【下図】など、太陽エネルギー機器の様々な導入方法を開発しています。このようなご提案を通じて、持続可能な社会の実現に直接的に関わっていきたいと考えています。（業務本部 中村 嘉寿良）

北信支部・須坂市



設置費用・維持費用が 0 円で導入できる「あおぞら電力」

地球温暖化防止活動推進員密着レポート

ゼロカーボンに向けて一人ひとりができること



6月22日、長野県連合婦人会が長野市生涯学習センターで開いたセミナーでは、県推進員の**中澤博道さん(長野市)**を講師に、2050年度までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボン」の実現に向け、一人ひとりができることについて学びました。

中澤さんは当協会前事務局長で、『[信州版]省エネガイドブック～楽しく!無理なく!得をする!～』の作成に携わるほか、食と農を出発点に、無理をしないで、でも少しだけやせ我慢を受け入れて、地球温暖化防止などに取り組んでいます。

講演では『信州ゼロカーボン BOOK(県民編)』掲載の、令和元年東日本台風(台風19号)により甚大な被害があった長野市(千曲川流域)の写真を示しながら、自身の家が床上浸水となり避難所生活を余儀なくされたことを振り返り、地球温暖化防止の重要性を訴えました。

エネルギー問題から家電の省エネや食について解説。食については「旬のものを地産地消で食べることで、輸送に伴う二酸化炭素排出削減や地域の活性化につながる」と話しました。

家庭の省エネの進め方



7月2日、小諸市食生活改善推進協議会が小諸市保健センターで開いた講習で、県推進員の**赤尾興一さん(小諸市)**が講師を務め、家庭の省エネの進め方を伝授しました。

赤尾さんは退職以来、環境ビジネス33年の経験を生かして、地球温暖化防止活動をしてきました。最近は啓発活動以外に、具体的に二酸化炭素排出削減を図るべく、「うちエコ診断士」として家庭の省エネに注力しています。

講習では、長野県における気候変動と将来予測について説明した上で、推進員有志で作成した『[信州版]省エネガイドブック』を教材に、家庭の省エネの進め方を解説。夏を涼しく過ごすコツをはじめ、ごみを減らして涼しく作る夏の食生活、天然冷蔵倉庫の風穴などについて、実体験を交えながら話しました。このうち、風穴については、小諸市の「氷風穴」を紹介。真夏でも温度4~5度を保ち、漬物などの保存が可能といい、「市内の風穴群は明治40年頃に、蚕種の貯蔵量が全国トップだった。お近くの風穴をぜひ冷蔵庫代わりに使い、省エネしてみても」と呼びかけました。(県センター 本山聖一)

『[信州版]夏の省エネガイドブック』(2021年度改訂版)公開



A4版・28頁

昨夏、県推進員有志が作成したガイドブックを、今年5月から2ヶ月かけて見直し、内容を充実させて4頁増やした改訂版です。「地球温暖化と私たちの暮らし」「コンロ ガスと電気 どちらがお得?」「植物で夏のくらしを涼しく」「地球温暖化とプラスチック」などが加わりました。ぜひ、県センターホームページからダウンロードしてご活用ください。



@nccca2021



地球温暖化、省エネ等の情報を発信します。フォローをお願いします。

長野地域ゼロカーボン推進研修会 当協会で開催

脱炭素社会の実現に向け、県長野地域振興局は6月29日、長野地域の県職員向けゼロカーボン推進研修会を当協会で開催しました。

2050年度までに温室効果ガス排出ゼロを目指す長野県は6月、県ゼロカーボン戦略を策定しました。これを受け、気候変動や省エネルギーの推進などについて、県職員自らが学び、実践につなげるために同振興局が今回初めて研修会を企画しました。

研修会では、県環境部担当者が2050ゼロカーボン実現に向けた県の取組を説明した後、デジタル地球儀「触れる地球」とエコドライブシミュレーターの体験プログラムを行いました。

「触れる地球」には、現在、過去、未来のデータを表示できる機能があります。大気汚染物質の移動、生き物の移動、温暖化の予測などのデータから広い視野で地球を捉え、気候変動が地球規模の問題であることを視覚的に感じてもらいました。

また、エコドライブシミュレーターでは、基本となる3つの行動（ふんわりアクセルスタート、早め



地球温暖化のシミュレーションを映す「触れる地球」



エコな運転を疑似体験



エシカル消費について話す渡辺さん

のアクセルオフ、加減速の少ない安定した走行)を疑似体験。エコな運転が交通事故防止にもつながることなども学んでもらいました。

続いて、県地球温暖化防止活動推進員の渡辺ヒデ子さんが、「ゼロカーボンに向けて今一人ひとりができること エシカル消費」を演題に講義しました。「エシカル消費」とは、人や社会、地球環境に配慮したモノやサービスを選んで購入、消費することで、商品の見えない裏側のことを考え消費すること——と説明。2017年の名目国内総生産(GDP)の中で家計消費が5割強を占めることを挙げ、「買い物は商品への投票。エシカル消費という一人の選択が社会を変える」と話しました。

続いて、うちエコ診断士の山口吉久さんが「うちエコ診断」について解説。家庭の光熱費や二酸化炭素排出量、省エネ対策が5分でわかるウェブ版のサービスを説明し、2050ゼロカーボンの実現を呼びかけました。

なお、NHK、SBC、信濃毎日新聞の取材が入り、ニュース等で報道されました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 事務局からのお知らせ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◆次号から『エコシン』の発行が変わります

2005年8月号より毎月発行してきました『エコシン』ですが、次回より発行を隔月(偶数月)とさせていただきます。今後は会員の皆さんにとどまらず、県内図書館等でもご覧いただけるよう、配布先を拡げてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

◆『信州ゼロカーボン BOOK』を同封します

長野県環境部と県センターが協力してまとめた『信州ゼロカーボン BOOK』ですが、個人会員の皆さんには「県民編」、法人会員の皆さんには「事業者編」を同封いたしました。ゼロカーボン取り組みの一助としてご活用願います。

🚲 信州スマートムーブ通勤ウィーク(信スマ) 🚗 9/17[金]-9/30[木]

【発行元】 ☎380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

📖 誌名の「エコシン」は「エコ信州」の略称です

● 一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp http://nace.main.jp/

● 長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/

● 長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp http://www.eco-mame.net/

